

地域金融機関にとってのスタートアップ支援とは⑤

— 沼津信用金庫（静岡県）による「人とのつながり×学金連携」でのスタートアップ支援に向けた挑戦 —

信金中央金庫 総合研究所上席主任研究員

藁品 和寿

(キーワード) スタートアップ企業、沼津信用金庫、スタートアップ支援拠点、学金連携、人とのつながり、ヨコ連携

(視 点)

2024年11月で政府が「スタートアップ育成5か年計画」を公表してから丸2年を迎えたことを踏まえ、当研究所は、2025年度を通じて「スタートアップ支援」を題材とした調査レポートを複数回、発刊する予定である。

産業企業情報 No.2025-5 (2025年6月3日発刊) を皮切りに、地方圏における自治体や信用金庫によるスタートアップ支援の取組み事例を紹介してきたが、本稿では、沼津市（静岡県）に本店を置く沼津信用金庫による「人とのつながり×学金連携」でのスタートアップ支援の取組みを紹介する。

(要 旨)

- 地域におけるスタートアップ企業の創出において、大学が一定の役割を果たしている。学金連携の継続に向けて、態勢面を含めて課題は少なくないが、地域内での知識のスピルオーバー効果の創出を目指し、連携の目的に合わせながら活動内容を昇華させていくことが期待されている。信用金庫としては、知識のスピルオーバー効果の創出に加えて、地域人材の発掘・確保という観点からも、文部科学省が取り組む地域連携プラットフォーム等を活用しながら、地域内での産業の集積効果の創出において一定の役割を果たしていくことが期待されている。
- 沼津信用金庫（静岡県）は、まちづくりプラットフォーム「ぬましんCOMPASS」内にある創業支援拠点「TENTOぬまづ」を運営している。また、拠点内には、国立大学法人静岡大学、静岡県公立大学法人静岡県立大学、国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校がサテライトオフィスを設置し、地域課題や企業課題の解決に伴走している。同拠点は、シェアオフィス、コワーキングスペース、ワークショップスペースの機能を1つにまとめ、事業創出する準備を整える拠点となっている。同拠点を通じて、多様化する、さまざまな地域課題に応えるとともに、世代やキャリア、地域等をまたいで、人とのつながりづくり、新しいコミュニティづくり、新たなビジネスづくりに一役買っている。
- 今後は、“ヨコのつながり”として、スタートアップ支援拠点同士での広域連携を図っていききたいという。市外にある拠点の入居者が同拠点を利用することで、新たな交流が生まれ新たな事業につながっていくことを期待している。こうした広域連携を通じて、「ぬましんCOMPASS」のさらなる知名度向上を図りたい。
- 将来的に、同拠点から“卒業”した企業が、同拠点で培った「人とのつながり」を活かしながら、引き続き地元にとどまって事業を拡大していくことができれば、“沼津発”の成長企業が生まれることも期待できるのではないだろうか。

はじめに

2024年11月に政府が「スタートアップ育成5か年計画」を公表してから丸2年を迎えたことを踏まえ、当研究所は、2025年度を通じて「スタートアップ支援」を題材とした調査レポートを複数回、発刊する予定である。

産業企業情報 No.2025-5^(注1) (2025年6月3日発刊)を皮切りに、地方圏における自治体や信用金庫によるスタートアップ支援の取組み事例を紹介してきたが、本稿では、沼津市(静岡県)に本店を置く沼津信用金庫による「人とのつながり×学金連携」での取組みを紹介する。

なお、本稿作成に際して、沼津信用金庫地域創生部執行役員部長 武田守晃様、課長 羽根田和幸様、インキュベーションマネージャー 勝又祥雄様、地域創生 A・M 担当 及川尚亮様に取材をさせていただいた。貴重なお時間を頂戴したことに、この場をお借りしてお礼申し上げたい。

1. 知識のスピルオーバー効果が期待される学金連携

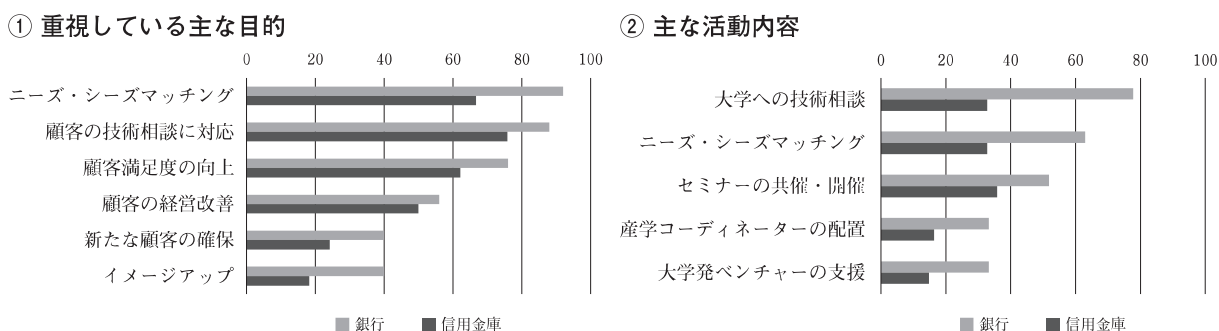
加藤(2024)は、「正の外部性(外部効果)」を、ある企業や個人の活動が周囲の企業や個人に対して市場での取引なしに好影響を与えることと定義している。また、スタートアップ企業が創出した地域において、組織間の交流が増えることで新たな知識が伝播し、関連分野の既存企業の生産性が高まるといった正の外部性を「知識のスピルオーバー」と呼んでいる。その上で、国内外の研究成果を踏まえ、特に技術的な情報の伝達が人を介して行われる場合、知識のスピルオーバーが得られるかどうかは「大学(特に研究大学)との距離」に依存する傾向があり、共同研究の実施等を通じて地域内における知識のスピルオーバーが起きやすい傾向があるとしている。すなわち、地域におけるスタートアップ企業の創出において、大学が一定の役割を果たしていることを示唆しているといえよう。

高澤・小野(2010)は、61の大学と570の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合)を対象に^(注2)、学金連携の実態を把握するためのアンケート調査を実施した。この結果、何らかの連携活動を実施している金融機関では、連携の目的として(図表1①)、大学の持つ技術や専門的な知識に基づいたコンサルティング機能を活用することを重視する傾向がみられる。また、具体的な活動内容をみると(図表1②)、「技術相談」、「ニーズ・シーズマッチング」、「セミナーの開催」が典型的なものになっている。「大学発ベンチャーの支援」に取り組むケースも一定数みられる。学金連携の継続に向けて、態勢面を含めた課題は少なくないものの、地域内での知識のス

(注)1. 当研究所ホームページ(<https://www.scbri.jp/reports/industry/20250603-2-35.html>)を参照

2. 回収率は、大学で77.0%(47)、金融機関で37.7%(215)である。

図表1 学金連携で重視している目的と活動内容



(備考) 1. サンプル数は銀行n=25、信用金庫n=66
 2. 高澤、小野 (2010) をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

ピルオーバー効果の創出を目指し、連携の目的に合わせながら活動内容を昇華させていくことが期待されているといえよう。

急速な少子化により、特に地方圏を中心に高等教育機関が厳しい経営状況に陥ることが懸念される中、文部科学省は、中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」で提言された「地域連携プラットフォーム」^(注3)を通じて、複数の大学等と地方公共団体、産業界等とが恒常的に対話し、連携を行うための体制構築を進めている。地域連携プラットフォームは、2024年6月28日現在で全国に273あるとされ^(注4)、そのうち20以上で地元の信用金庫が構成員となっている^(注5)。

信用金庫としては、知識のスピルオーバー効果の創出に加えて、地域人材の発掘・確保という観点からも、地域連携プラットフォーム等を活用しながら、地域内での産業の集積効果^(注6)等の創出において一定の役割を果たしていくことが期待されているといえるのではないだろうか。

(注)3. 文部科学省ホームページ (https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/platform/mext_00994.html) を参照。なお、地域連携プラットフォームは、文部科学省ガイドラインによると、①大学等のみならず、地方公共団体、産業界等の様々な関係機関が一体となった恒常的な議論・協議の場を構築している、②エビデンスに基づく現状・課題を把握した上で将来の目標を共有し、絵に描いた餅で終わることなく地域課題の解決に向けた連携協力の強化が図られている、③地域の大学等の活性化やグランドデザインの策定、高等教育機会の確保や地域人材の確保、大学等を含めた地域社会の維持発展を図るための仕組みとなっている、と定義されている。

4. https://www.mext.go.jp/content/20250218-mxt_koutou02-10662_1.pdf を参照

5. https://www.mext.go.jp/content/20250218-mxt_koutou02-10662_2.pdf を参照

6. 加藤(2024)は、多くの企業が同一地域内に立地することによって現れるさまざまなベネフィットのことと定義している。

2. 「人とのつながり×学金連携」で生み出すスタートアップビジネス

以下では、沼津信用金庫（静岡県）（図表2）が、沼津工業高等専門学校（以下「沼津高専」という。）、国立大学法人静岡大学（以下「静岡大学」という。）、静岡県公立大学法人（静岡県立大学および静岡県立大学短期大学部、以下「静岡県立大学」という。）と連携して運営するスタートアップ支援拠点「ぬましんCOMPASS NUMAZU」（図表3）の取組み事例を紹介する。

図表2 金庫の概要

信用金庫名	沼津信用金庫
理事長	鈴木 俊一
本店所在地	静岡県沼津市
設立	1950年4月
役職員数	463名
預金量	5,701億円
貸出量	2,399億円



- （備考）1. 2025年3月末現在
 2. 写真（中央）は沼津信用金庫本店、写真（右）は地域創生部執行役員部長 武田守晃様
 3. 沼津信用金庫ホームページ等をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

（1）開設の経緯

同拠点の建物は、築60年ほどで、20数年前に都市銀行から買い受けた。買い受けた当初、駅北支店として運営していたが、徒歩圏内に支店が隣接していたことから統廃合を検討するに至った。その際、中心市街地の目立つ場所に立地することからシャッターを下ろすのは好ましくないと判断し、街の活性化のため、若者が集まる場所づくりを目的に、シェアオフィスやコワーキングスペース、ワークショップスペースの設置に向けた検討を開始した。

図表3 「ぬましんCOMPASS NUMAZU」の外観



- （備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所撮影

折しも、沼津市リノベーションまちづくり実行協議会は、2014年度から、市内で増加する空

きビル、空き家、空き地等の民間遊休不動産や利用度の低下した公共施設等を再利用し^(注7)、そこにU・I・Jターン人材を呼び込むことを通じて地元住民との相乗効果を生むことで地域活性化につなげるため、「リノベーションまちづくり」事業^(注8)を推進している。そこで、同拠点の設置にあたっては、この公民連携事業の一環としてリノベーションに取り組み、2020年7月のオープンに至った^(注9)(図表4)。

図表4 「ぬましんCOMPASS NUMAZU」の開設式で挨拶する紅野正裕会長



(備考) 沼津信用金庫地域創生部提供

(2) 「ぬましんCOMPASS NUMAZU」の役割・機能

同拠点は、シェアオフィス、コワーキングスペース、ワークショップスペースの機能を1つにまとめ、「まちづくりプラットフォーム」としての役割を果たしている。名称の「COMPASS」には、沼津市が港町であることから港に集まる船舶をイメージし、それぞれの船舶が安全に航海できるよう同金庫が「羅針盤(コンパス)」になるという熱い思いが込められている。なお、同金庫は、御殿場市^(注10)、伊豆市^(注11)にも拠点を設置し、それぞれ学生と地域の交流ならびに関係人口の創出へとつなげる複合的な場として提供されており、「多様化する、さまざまな地域課題に 대응していきたい」と意気込む。

同拠点は3階建てであり、1階には、旧駅北支店の事務室とロビーがあったが、これらを改装した。事務室スペースであった場所には、IT企業の(株)アーティスティックス^(注12)が開設当初から入居している。なお、同社代表取締役は、沼津高専の出身であり、開設後の沼津高専との連携の深化や入居者募集等において先導的な役割を果たしたという。ロビースペースであった場所には、同金庫のATMコーナーのほか、コミュニティスペースとして「みんなの図書館COMPASS」(私設図書館)を設置した(図表5①)。82の本棚スペースを設け、それぞれにオーナーを募集し、オーナーは皆に読んでほしいと思う書籍等を自由に置き、無料で貸し借りをしている。また、コルクボードを介して(図表5②)、オーナーや利用者同士で読書会等を企画する等、イベントも随時開催している。同拠点の近隣に本屋が少なく、市立図書館も中心市街地から距離があるため、地元の利用者からは重宝されているという。

(注)7. 沼津市ホームページ (<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/renovation/sousyutu/doc/projectmap.pdf>) を参照

8. 沼津市ホームページ (<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/renovation/>) を参照

9. オープン当初の入居者は公募し、15者であった。

10. 沼津信用金庫ホームページ (<https://www.numashin.co.jp/ncompass/gotemba/>) を参照

11. 沼津信用金庫ホームページ (<https://www.numashin.co.jp/ncompass/shuzenji/>) を参照

12. <https://www.artistics.co.jp/> を参照

図表5 1階スペース

① みんなの図書館COMPASS



② 各種イベントを掲示したコルクボード



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所撮影 (①は沼津信用金庫地域創生部提供)

1階から2階に上がる踊り場には、同拠点の立体ロゴマーク(図表6)が掲げられている。同金庫の想いを体現したもので、地元出身の著名な立体アーティストである田村映二氏(愛称: ^{タムタム} tamtam)が制作した。また、文字デザインは、地元のデザイン会社である(有)サンディオス^(注13)が手掛けている。

同金庫は、シェアオフィスやコワーキングスペースを運営する、mass × mass 関内フューチャーセンター^(注14)(神奈川県横浜市)と業務提携をしている。同センターは、地元(神奈川県足柄上郡山北町)の間伐材を活用して作られたシェアオフィス「TENTO」を展開していることから、2階には、地元の愛鷹山の間伐材を活用して「TENTOぬまづ」を設置した。なお、同金庫では、2020年から、3名の外部人材を事業戦略アドバイザーとして任命しており、そのうち1名が同センターの代表者であることが設置のきっかけになっている^(注15)。

2階は、入居者^(注16)のみが利用できるシェアオフィス&コワーキングスペース(図表7)で全16席を設け、勝又インキュベーションマネージャーが常駐している。セコム(株)が提供する

図表6 立体ロゴマーク



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所撮影

(注)13. <https://sundios.jp/>を参照

14. <https://massmass.jp/>を参照

15. このほか、地域活性化伝道師(内閣府)、三島市出身で3×3Lab Future(さんさんラボ フューチャー、東京・大手町)の館長を勤める三菱地所(株)の社員を任命している。

16. シェアオフィス利用、コワーキングスペース利用それぞれで料金体系は異なる。24時間365日、利用できる。また、同拠点所在地で法人登記ができる。

図表7 2階スペース「TENTOぬまづ」

① 静岡大学沼津イノベーションオフィス



② 個室ブース



③ ミーティングルーム



④ ロッカールーム



⑤ コワーキングスペース



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所撮影

入退室管理システムで万全に管理されている。2025年10月末現在の入居者は、個人利用を含めて20者であり、2024年7月に開設された静岡大学沼津イノベーションオフィス^(注17)も入居している。なお、同金庫としては「オープンにつながりたい人」、すなわち“隣の話し声がグッド・ノイズに感じる人”を入居者として期待していることから、個室ブースを含めて鍵を設置していない。例えば、開設当初から入居しているセブンスenseマーケティング(株)^(注18)(代表者：宮田昌輝氏)は、同金庫からの金融・非金融支援のほか入居者同士のコミュニケーション等を通じて、外部ベンチャーキャピタル(VC)からの資金を入れずに成長を続けている。そのほか、別の一室には、同金庫が2024年8月に連携協定を締結した静岡県立

(注)17. 静岡大学イノベーション社会連携推進機構のコーディネーターが、週1回(毎週水曜日)滞在し、地元企業への経営相談等を行っている。

18. <https://seventh-sense.co.jp/seventh-sense-marketing/>を参照

図表8 3階スペース

① 沼津高専サテライトオフィス ② ワークショップスタジオ「BUZZ」



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所撮影

大学のサテライトオフィス「Kendai-com」^(注19)が開所している。金庫室であった場所も改装され、ロッカールームが設置されている。

3階の1室^(注20)には、開設当初から、沼津高専サテライトオフィス「N-com」^(注21)が設置されている(図表8①)。また、休憩スペース「COMPASS Cafe」のほか、ワークショップスタジオ「BUZZ」(図表8②)も設置されている。後者は、セミナールームとして第三者に有料で貸し出しているほか、学生向けの学習スペースとして、平日および土曜日^(注22)に無料で開放している。武田執行役員部長は、累計1,700名ほどの中学・高校生が同拠点に足を運ぶ流れを生み出したことは大きな意義があったと言い切る。学習スペースとして開放している際は、16時以降から連携する高等教育機関の学生をアルバイトで雇い、最終の戸締りまでを任せている。なお、大学生を配置したことで、何気ない雑談^(注23)を通じて高校生と大学生の交流が生まれる等、当初には想定していなかった好循環も生まれているという。

このように、同拠点は、世代やキャリア、地域等をまたいで、人とのつながりづくり、新しいコミュニティづくり、新たなビジネスづくりに一役買っている。

(注)19. 大学教員が、週1回(毎週木曜日)滞在し、食品、薬品、看護関連を中心に、新たな商品・サービスの共同開発を行っている。例えば、2024年12月には、「東部のお茶 PROJECT」によるBtoB交流イベントが開催されている(<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/news/20241211/>)。

20. 用務員の宿泊室であった場所を改装した。向かい側には、食堂を改装した給湯室スペースも設置されている。

21. 教員が週2回(毎週火曜日・金曜日)滞在し、技術分野を中心に地元企業との連携を図っている。

22. 平日は9時から20時まで、第1・3・5土曜日は10時から17時まで開放している。なお、2025年末は、受験を控えた学生のため、同金庫の営業終了日まで開放する予定である。

23. 大学生は高校生に勉強を教える立場ではない。雑談では、高校生の関心が高い大学生活に関する話題が多いという。

(3) 「ぬましんCOMPASS NUMAZU」から生まれた成果

同拠点では、2024年秋頃から、人生100年時代を生き抜くための学びのプラットフォームとして「セカンドキャリアアクション講座」^(注24)が提供されている。2025年度で3回目の実施となる。本講座を通じて、受講者には自らの経験を棚卸しして“自分らしさ”を再発見してもらい、地元で何かしらチャレンジをしたいと思えるきっかけになればと期待している。

2025年3月7日に、e-スポーツを題材に、静岡大学、静岡県立大学、沼津高専の学生のほか入居者を交えた初めての異業種交流会が開催され、学生と企業との交流を深めるきっかけとなった。また、2025年8月9日には、静岡大学、静岡県立大学、沼津高専の3つの高等教育機関合同での初めてのイベントとして、サマーカレッジ「もっと知ろう!! 静岡大、静岡県立大、沼津高専 in ぬましんCOMPASS」^(注25)が開催された(図表9)。同金庫と高等教育機関との間だけではなく、高等教育機関同士の関係を深めるきっかけにもつながっている。

図表9 静岡大学・静岡県立大学・沼津高専合同のサマーカレッジ(集合写真)



(備考) 沼津信用金庫地域創生部提供

静岡大学は、2021年8月から、東部サテライト「三余塾」(伊豆市)にて、伊豆半島の地域活性化を目的に、座長として「伊豆未来デザインラボ」^(注26)を運営している。同ラボには、規模の大小を問わず県内企業を中心に30者ほどが集まり、月1回、1～2時間程度、活発な意見交換・情報交換を行っている。地域金融機関では、同金庫とスルガ銀行が参加している。この意見交換・情報交換から企業同士の新たな連携につながる等、一定の成果が生まれている。なお、集会場所として、同拠点のワークショップスタジオ等が利用されることがあり、同ラボの参加者を通じて知名度の向上にもつながっている。

同拠点で開催されるさまざまなイベントには、入居者だけではなく同金庫役職員も参加するため、入居者同士だけではなく入居者と同金庫役職員との間の交流も深まっている。また、開設から5年が経ち、現入居者の活動が次に続く創業希望者等の入居のきっかけになるといった好循環も生まれており、同金庫は、まさに「コンパス＝羅針盤」として、インキュベーターと

(注)24. 沼津信用金庫ホームページ (https://www.numashin.co.jp/ncompass/numazu/project/2025/20250603_02.html) を参照

25. 沼津信用金庫ホームページ (<https://www.numashin.co.jp/ncompass/numazu/project/2025/images/summercollege.pdf>) を参照

26. <https://www.sdgs.shizuoka.ac.jp/initiatives/1013/> を参照

しての活動をさらに昇華させていきたいと意気込む。

沼津市は、「沼津市 IT オフィス等進出事業費補助金^(注27)」により、市内に新たに賃借して IT オフィス等を開設する際に、建物賃借料、通信回線使用料、IT オフィス開設経費の一部または全部を助成している。こうした助成制度により、例えば同拠点から卒業する入居者が市内にとどまって活動し続けるインセンティブにつなげている。同金庫としては、市外からの創業希望者だけでなく、市内からの創業希望者への伴走支援も強化しながら、地域に根差す信用金庫としての使命の一つである、“沼津発”の情報発信力を強めていきたいと大いに意気込む。

おわりに 一スタートアップ支援拠点同士の“ヨコ連携”への期待一

武田執行役員部長が「隣の話し声をグッド・ノイズと覚えることのできる人にぜひ入居してほしい」と発言したとおり、「ぬましんCOMPASS」は、「人とのつながりを生み出す」という強い想いの下で開設、運営されている。実際に、同拠点では、入居者同士にとどまらず、入居者と同金庫役職員、あるいは学金連携している高等教育機関の関係者や学生との間のコミュニケーションから好循環が生まれ、新たな“絆”につながっているという。

また、同金庫は、開設から5年が経ち、同拠点の魅力が実感できるほどに引き出されたと自負する。今後は、“ヨコのつながり”として、スタートアップ支援拠点同士での広域連携を図っていきたいと意気込む。例えば、浜松いわた信用金庫（静岡県）が2020年6月にオープンした「FUSE」^{フューズ}^(注28)等の入居者が同拠点を利用することで、新たな交流が生まれ新たな事業につながっていくこと等を期待している。こうした広域連携を通じて、「ぬましんCOMPASS」のさらなる知名度向上を図りたいという。

さらに、将来的に、同拠点から“卒業”した企業が、同拠点で培った「人とのつながり」を活かしながら、引き続き地元にとどまって事業を拡大していくことができれば、“沼津発”の成長企業が生まれることも期待できるのではないだろうか。

〈参考文献〉

- ・加藤雅俊、『スタートアップの経済学 新しい企業の誕生と成長プロセスを学ぶ』、有斐閣（2024年）
- ・高澤由美、小野浩幸（2010年）、労金連携の実態に関する基礎的研究、産学連携学Vol.6 No.2、pp33-43
- ・文部科学省（2024年6月28日）、地方公共団体と高等教育機関との連携の状況に関するアンケート結果

(注)27. 沼津市ホームページ (<https://city.numazu.shizuoka.jp/business/yuchi/shoko/itoffice/index.htm>) を参照

28. 浜松いわた信用金庫ホームページ (<https://hamamatsu-iwata.jp/business/sogyo/fusehamamatsu/>) を参照